

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科  
2025 年度春学期入学試験  
アカウンティングスクール(会計専門職専攻)B 方式(筆記試験型)入学試験  
筆記試験問題

財 務 会 計

問題 1

次の各取引の仕訳を示しなさい。(15 点)

- (1) 売買目的で当期中に 2 回にわたって購入していた A 社株式 8,000 株のうち 4,000 株を 1 株当たり 3,000 円で売却し、代金は月末に受け取ることにした。なお、同社株式は第 1 回目に 6,000 株を 1 株当たり 2,800 円、第 2 回目に 2,000 株を 1 株当たり 2,600 円でそれぞれ購入したもので、株式の払出単価の計算は平均原価法によっている。
- (2) B 社は、×1 年 6 月 25 日の定時株主総会において繰越利益剰余金を次のとおり、配当および処分することが承認された。  
利益準備金：会社法の定める金額 別途積立金：300,000 円 株主配当金：1 株につき 95 円  
なお、×1 年 3 月 31 日（決算日）現在の資本金、資本準備金、利益準備金の各勘定残高はそれぞれ 12,000,000 円、1,000,000 円、500,000 円であり、その後変動はなかった。また、発行済株式数は 10,000 株であった。
- (3) C 社は、D 社を吸収合併し、D 社株式と引き換えに C 社株式を発行し、交付した。合併直前の D 社の諸資産は 2,000,000 円（時価）、諸負債は 1,100,000 円（時価）、交付した C 社株式の時価は 1,000,000 円である。なお、増加する資本のうち 2 分の 1 を資本金とした。
- (4) 売掛金および買掛金には外貨建てのものが含まれている。決算日における為替相場は 150 円/ドルであり、換算替えを行う。  
売掛金 500 ドル 取引時の為替相場 145 円/ドル、買掛金 600 ドル 取引時の為替相場 147 円/ドル
- (5) P 社は×1 年 3 月 31 日に S 社の発行済株式数の 70%を 1,200,000 円で取得し、支配を獲得した。支配獲得日における S 社の資本は、資本金 1,000,000 円、利益剰余金は 500,000 円であった。支配獲得日において投資と資本の相殺消去を行った。

〔解答欄〕

(単位：円)

	借方科目	借方金額	貸方科目	貸方金額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科  
2025 年度春学期入学試験  
アカウンティングスクール(会計専門職専攻)B 方式(筆記試験型)入学試験  
筆記試験問題

**問題 2**

次の〔資料 1〕～〔資料 3〕に基づいて、次ページの本支店合併損益計算書と本支店合併貸借対照表を作成しなさい。(15 点)

〔資料 1〕 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表

(単位：千円)

借方科目	本 店	支 店	貸方科目	本 店	支 店
現 金 預 金	150,000	70,000	買 掛 金	159,000	157,575
売 掛 金	232,500	135,000	貸 倒 引 当 金	6,750	1,275
繰 越 商 品	118,500	52,500	減価償却累計額	36,000	9,000
支 店	143,800	—	本 店	—	102,150
備 品	120,000	45,000	資 本 金	300,000	—
仕 入	682,500	415,500	利 益 剰 余 金	117,000	—
営 業 費	246,950	181,250	売 上	1,075,500	629,250
	1,694,250	899,250		1,694,250	899,250

〔資料 2〕 未達事項

1. 支店は本店へ現金 21,400 円を送付したが、本店に未達である。
2. 支店は本店の売掛金 27,000 円を回収したが、支店に未達である。
3. 本店は支店の買掛金 18,000 円を支払ったが、支店に未達である。
4. 本店は支店の営業費 29,250 円を立替払いしたが、支店に未達である。

〔資料 3〕 期末修正事項

1. 期末商品棚卸高
  - (1) 本店 147,000 円
  - (2) 支店 42,000 円
2. 売掛金の期末残高に対して、本支店ともに 5% の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
3. 備品に対して、本支店ともに定率法 (償却率 25%) で減価償却を行う。
4. 営業費の前払分 19,500 円を繰延べる。

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科  
 2025 年度春学期入学試験  
 アカウンティングスクール(会計専門職専攻)B 方式(筆記試験型)入学試験  
 筆記試験問題

本支店合併損益計算書

			(単位：千円)
I	売上高		(            )
II	売上原価		
	1. 期首商品棚卸高	(            )	
	2. 当期商品仕入高	(            )	
	合 計	(            )	
	3. 期末商品棚卸高	(            )	(            )
	売上総利益		(            )
III	販売費及び一般管理費		
	1. 営業費	(            )	
	2. 貸倒引当金繰入	(            )	
	3. 減価償却費	(            )	(            )
	当期純利益		(            )

本支店合併貸借対照表

				(単位：千円)
現 金	預 金	(            )	買 掛 金	(            )
売 掛 金		(            )	資 本 金	(            )
貸 倒 引 当 金		(            )	利 益 剰 余 金	(            )
商 品		(            )		
(            )		(            )		
備 品		(            )		
減価償却累計額		(            )		
		(            )		(            )

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科  
2025 年度春学期入学試験  
アカウンティングスクール(会計専門職専攻)B 方式(筆記試験型)入学試験  
筆記試験問題

**問題 3**

リース取引を 2 つに分類し、それぞれの会計処理について説明しなさい。(10 点)

〔解答欄〕


**問題 4**

連結貸借対照表の作成にあたり、親会社の子会社に対する投資とこれに対応する子会社の資本を相殺消去しなければならない理由を説明しなさい。(10 点)

〔解答欄〕


関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科  
2025 年度春学期入学試験  
アカウンティングスクール(会計専門職専攻)B 方式(筆記試験型)入学試験  
筆記試験問題

管 理 会 計

問題 5

KG 社は、単一工程単純総合原価計算によって製品製造原価の計算を行っており、月末仕掛品原価は先入先出法により計算している。次の〔資料〕に基づいて、月末仕掛品原価、当月完成品総合原価、および完成品製造単価を求めなさい。なお、正常減損はすべて工程の始点で発生したものであり、正常減損度外視法で計算する。(10 点)

〔資料〕

1. 生産データ

月初仕掛品	400 個	(0.75)
当月投入量	<u>800 個</u>	
合 計	1,200 個	
正常減損	100 個	
月末仕掛品	<u>200 個</u>	(0.5)
完成品	<u>900 個</u>	

2. 金額データ

月初仕掛品原価	
直接材料費	32,000 円
加工費	36,000 円
当月製造費用	
直接材料費	56,000 円
加工費	84,000 円

- ・仕掛品に付記している（ ）内の数値は加工進捗度である。
- ・材料はすべて工程の始点で投入される。

〔解答欄〕

	月末仕掛品原価	当月完成品総合原価
直接材料費	円	円
加 工 費	円	円
合 計	円	円

完成品製造単価	@ 円
---------	-----

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科  
2025 年度春学期入学試験  
アカウンティングスクール(会計専門職専攻)B 方式(筆記試験型)入学試験  
筆記試験問題

**問題 6**

当社では標準原価計算を行っている。次の〔資料〕に基づいて、パーシャル・プランによる仕掛品勘定を作成し、差異分析を行いなさい。なお、能率差異は標準配賦率により計算すること。(10 点)

〔資料〕

1. 標準原価カード

標準原価カード				
費目	標準消費量		標準価格	金額
標準直接材料費	5kg	×	@400 円	= 2,000 円
	標準直接作業時間		標準賃率	
標準直接労務費	3 時間	×	@400 円	= 1,200 円
	標準直接作業時間		標準配賦率	
標準製造間接費	3 時間	×	@600 円	= 1,800 円
製品 1 個あたりの標準原価				<u>5,000 円</u>

2. 生産データ

月初仕掛品	100 個	(40%)
当月投入	800 個	
合計	900 個	
月末仕掛品	200 個	(80%)
当月完成品	700 個	

3. 公式法変動予算

変動費率	@200 円
月間固定費	1,200,000 円
基準操業度 (直接作業時間)	3,000 時間

4. 実際原価データ

実際直接材料費	1,330,000 円 (3,800kg)
実際直接労務費	1,100,000 円 (2,500 時間)
製造間接費実際発生額	1,800,000 円

- ・仕掛品に付記している ( ) 内の数値は加工進捗度である。
- ・材料はすべて工程の始点で投入される。

〔解答欄〕

仕掛品		(単位: 円)
月初仕掛品原価	( )	完成品製造原価 ( )
直接材料費	( )	原価差異 ( )
直接労務費	( )	月末仕掛品原価 ( )
製造間接費	( )	
	( )	

(注) 金額の後の [ ] 内には 有利 または 不利 と記入すること。

価格差異	( ) 円 [ ]	数量差異	( ) 円 [ ]
賃率差異	( ) 円 [ ]	時間差異	( ) 円 [ ]
予算差異	( ) 円 [ ]	操業度差異	( ) 円 [ ]
能率差異	( ) 円 [ ]		

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科  
 2025 年度春学期入学試験  
 アカウンティングスクール(会計専門職専攻)B 方式(筆記試験型)入学試験  
 筆記試験問題

**問題 7**

次の (1) ～ (5) の記述のうち、下線部に当てはまる最も適切な語句を語群から選び、その記号を解答欄に記入しなさい。(10 点)

- (1) 帳簿棚卸高と実地棚卸高の差を棚卸減耗という。棚卸減耗が正常な原因による場合、その棚卸減耗費は、\_\_\_\_\_で処理する。

語群： (A) 直接材料費 (B) 間接材料費 (C) 直接経費 (D) 間接経費

- (2) 総合原価計算において、工程始点で正常減損が発生する場合、その正常減損費は\_\_\_\_\_に負担させる。

語群： (A) 完成品と月末仕掛品 (B) 完成品 (C) 月末仕掛品

- (3) 標準原価計算の製造間接費の差異分析において、\_\_\_\_\_は、作業効率の良否を判定するために使われる。

語群： (A) 予算差異 (B) 操業度差異 (C) 能率差異 (D) 数量差異

- (4) 複数の代替案の中から一つの案を選択する意思決定において、代替案間で発生額が変わらない原価のことを\_\_\_\_\_という。

語群： (A) 差額原価 (B) 機会原価 (C) 無関連原価 (D) 実際原価

- (5) 活動基準原価計算 (ABC) では、各活動に対して、できる限り関連性が高い活動ドライバーを選択することが重要である。例えば、検査活動の原価に対して、下記の語群の中で最も関連性が高い活動ドライバーは\_\_\_\_\_である。

語群： (A) 検査回数 (B) 検査時間 (C) 検査員の人数

〔解答欄〕

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	